

農村振興局長賞（被害防止部門（団体））

「自分たちの村は自分たちで守る」住民主導の被害対策に、実施隊や若者など多様な担い手を巻き込み、集落を活性化。

ひがしとみやま

おおやしき

四万十市東富山地区大屋敷集落

（代表者：道倉 久）

主な取組

高知県四万十市

平成24年度に県が始めた事業をきっかけに、集落内での勉強会などを実施。話し合いを重ねた末、「自分たちの村は自分たちで守ろう」との結論に至った。

イノシシ、シカの侵入経路や被害実態などを調査し、マップ化する集落環境調査を実施。実施隊の助言を受けながら、防除方法の指導などの集落検討会を開催。

大月町（近隣の行政機関）から、使わなくなった漁網の再利用の相談を受け、防護柵として活用するモデル園を設置。「まずは漁網で獣害ゼロ」をキャッチフレーズに、集落全員参加で集落環境の整備に取り組み。

柵設置後も、月に一度地域住民による維持管理などを実施し、イノシシ、シカによる被害はほぼゼロに。集落での捕獲やジビエに繋がる取組にも力を入れており、これら取組は市内の他の集落にも波及している。

さらに、1ターンなどの受入や、高知大学の学生を集落に招いて防護柵の設置や鳥獣対策に係る勉強会を開くなど、次世代を担う若者を巻き込んだ住民主導の鳥獣被害対策のモデルとして評価できる。